

# 宮古市内遺跡発掘調査概報 I

早稲枋 II 遺跡

崎山貝塚



1995.3

岩手県宮古市教育委員会







# 宮古市内遺跡発掘調査概報 I

早稲枋II遺跡

崎山貝塚

1995.3

岩手県宮古市教育委員会

The Board of Education Miyako, Iwate Pre.



カラー1 早稲栃Ⅱ遺跡第3号竪穴住居跡

カラー2 早稲栃Ⅱ遺跡第7号土坑跡・土器出土状況





カラー 1



カラー 2





## 序 文

宮古市では、国庫補助、県費補助を受けて平成6年度より平成10年度を第I期として、宮古市内遺跡発掘調査事業を実施します。

この事業は、昭和61年度から平成5年度までの8ヶ年間にわたって実施された崎山遺跡群発掘調査事業を継続するもので、対象地区を崎山地区から宮古市内全域へ拡大したものであります。

今年度は、個人住宅建築に伴う緊急調査を早稲栃Ⅱ遺跡で実施し縄文時代の竪穴住居跡や土坑跡などが発見されました。さらに、崎山貝塚では内容確認調査を実施しました。

また、崎山貝塚については今年度から『崎山貝塚調査指導委員会』を設置し、これまでの調査成果や今後の課題などについて御指導いただきました。その結果、崎山貝塚は豊富な動物遺存体をもつ貝塚であり、さらに特殊な集落構成をもつということから、全国的にも大変貴重な遺跡であるとの高い評価を受けております。この崎山貝塚を保存し、活用していくために今後も努力してまいりたいと存じます。

最後に、発掘調査から本書の作成に際して御指導、御助言をいただきました『崎山貝塚調査指導委員会』の委員の方々、文化庁記念物課、岩手県教育委員会文化課、岩手県立博物館、岩手県埋蔵文化財センター、陸前高田市立博物館をはじめとする関係機関と、御理解、御協力下さった地権者各位ならびに関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

宮古市教育委員会

教育長 佐藤 勇 逸



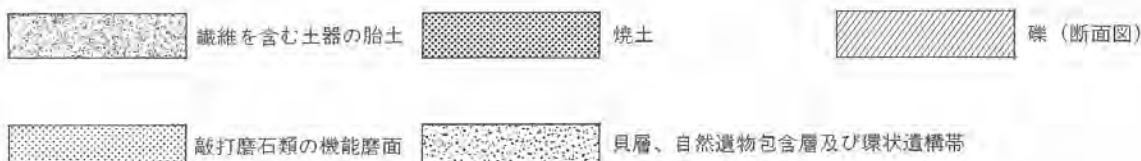
## 例 言

1. 本書は平成6年度に国庫補助を受けて実施した早稲栃Ⅱ遺跡第5次調査・崎山貝塚第11次調査の概報である。
2. 発掘調査の主体は宮古市教育委員会（教育長 佐藤勇逸）で、発掘調査および本書の執筆は高橋・三浦、編集は三浦が担当し、竹下・鎌田・阿部がこれを補佐した。
3. 調査座標は平面直角座標第X系を座標交換して使用したが、調査用の局地的な座標系であることを明示するためにRを冠して表示した。

座標軸方向 第X系に準じる

調査座標原点 X -35,800.000、 Y +97,000.000

4. 高さは標高値をそのまま使用した。
5. 遺構・遺物の表現については下記のとおりとした。



6. 発掘調査および遺物の整理、本書の執筆に際しては次の方々から御教示、御指導をいただいた。記して謝意を申し上げる。（敬称略）

岡村 道雄（文化庁記念物課） 熊谷 常正（岩手県教育委員会文化課）

相原 康二（岩手県教育委員会文化課） 佐藤 正彦（陸前高田市立博物館）

小田野哲憲（岩手県教育委員会文化課） 熊谷 賢（岩手考古学会）

7. 本文中の引用文献は次のとおりとした。（いずれも宮古市教育委員会刊行）

1979 『宮古市大付遺跡発掘調査報告書』→『大付報文79』

1938～1986 『宮古市分布調査報告書1～4』 武田将男→『分布調査1～4』

1986 『宮古市遺跡分布図 昭和60年度～平成5年度発掘調査概報』

1987～1994 『崎山遺跡群Ⅰ～Ⅷ 昭和61年度～平成5年度発掘調査概報』

→『崎山遺跡群Ⅰ～Ⅷ』

1987 『崎山貝塚・トロノ木Ⅳ遺跡発掘調査報告書』 上野猛→『崎山報文87』

1989 『トロノ木Ⅰ遺跡第1次～第7次発掘調査報告書』→『トロノ木Ⅰ報文89』

1992 『早稲栃Ⅱ遺跡—第1次・第2次発掘調査報告書』→『早稲栃Ⅱ報文92』

# 目 次

序 文

例 言

目 次

## I 調査経過

|            |   |
|------------|---|
| 1 宮古市内の遺跡群 | 1 |
| 2 これまでの調査  | 2 |
| 3 調査要旨     | 2 |
| 4 調査体制     | 4 |

## II 調査内容

|                |    |
|----------------|----|
| 1 早稲栃Ⅱ遺跡第5次調査  | 6  |
| (1) これまでの調査    | 6  |
| (2) 基本層序       | 6  |
| (3) 遺構の検出状況    | 6  |
| (4) 検出された遺構・遺物 | 11 |
| 2 崎山貝塚第11次調査   | 21 |

## III 調査のまとめ

|               |    |
|---------------|----|
| 1 早稲栃Ⅱ遺跡第5次調査 | 23 |
| 2 崎山貝塚第11次調査  | 23 |

## 図版目次

- 第1図版 早稲栃Ⅱ遺跡第3号竪穴住居跡、第3号竪穴住居跡埋土堆積状況
- 第2図版 第3号竪穴住居跡・炉（使用時）、第3号竪穴住居跡・炉構築土土層断面
- 第3図版 第3号竪穴住居跡・炉（構築時）、第3号竪穴住居跡土器出土状況
- 第4図版 第3号竪穴住居跡・土器出土状況
- 第5図版 第3号炉跡、第5次調査区北西部検出ピット群
- 第6図版 第7号土坑跡、第5次調査区土層堆積状況
- 第7図版 崎山貝塚第11次調査区全景、S9W12-2号配石遺構石斧出土状況

### <カラー口絵>

- カラー1 早稲栃Ⅱ遺跡第3号竪穴住居跡
- カラー2 早稲栃Ⅱ遺跡第7号土坑跡・土器出土状況

## 挿図目次

|      |                       |       |
|------|-----------------------|-------|
| 第1図  | 位置図                   | 3     |
| 第2図  | 崎山遺跡群と周辺の遺跡           | 5     |
| 第3図  | 早稲栃Ⅱ遺跡検出遺構配置図         | 7・8   |
| 第4図  | 早稲栃Ⅱ遺跡第5次調査区・土層断面図（1） | 9     |
| 第5図  | 早稲栃Ⅱ遺跡土層断面図（2）        | 10    |
| 第6図  | 第3号竪穴住居跡・第3号炉後（1）     | 12    |
| 第7図  | 第3号竪穴住居跡炉・第3号炉跡（2）    | 13    |
| 第8図  | 第3号竪穴住居跡出土遺物（1）       | 14    |
| 第9図  | 第3号竪穴住居跡出土遺物（2）       | 15    |
| 第10図 | 土坑跡・ピット類平面図           | 17    |
| 第11図 | 土坑跡・ピット類土層断面図・出土遺物    | 18    |
| 第12図 | 崎山貝塚周辺地形図             | 19・20 |
| 第13図 | 崎山貝塚第11次調査区           | 22    |



# I 調査経過

## 1 宮古市内の遺跡群

宮古市は、岩手県沿岸部の中央部に相当し、本州最東端に位置する。市域の総面積は338.38㎢をはかり、その大部分は丘陵・山地で、まとまった平坦地は閉伊川沿いと津軽石川沿いにわずかにみられるのみである。

宮古市では、昭和57年度から4ヶ年にわたり、市内の遺跡詳細分布調査を実施した。また、これ以降新たな遺跡の発見もあり、現在では440ヶ所以上の遺跡が確認されたが、その分布状況にはいくつかのまとまりがみられる。

海岸部を北からみると、市内北部海岸沿いの小本丘陵（海岸段丘）上には、開発行為によりほぼ破壊されてしまったが、縄文時代の遺跡が集中する『女遊戸遺跡群』がある。その南側には、前期から後期にわたり営まれた集落跡と、前期から中期の貝塚が形成された崎山貝塚、縄文時代晩期の屈葬人骨が発見された大付遺跡（貝塚）のほか、早稲橋Ⅱ遺跡など、縄文時代の遺跡や貝塚が集中する『崎山遺跡群』がある。さらに南側の現在の宮古湾を臨む丘陵上には、縄文時代の貝塚として古くから注目されている鉄ヶ崎館山貝塚を含む『鉄ヶ崎遺跡群』などが形成される。

閉伊川の南側、八木沢川流域の八木沢丘陵上には、縄文時代の人骨を出土した磯鶏蝦夷森貝塚・上村貝塚、平安時代の集落跡や中世の城館跡が発掘調査された磯鶏館山遺跡や、八木沢古館、八木沢新館など、縄文時代の遺跡と奈良・平安時代と中世の遺跡が集中する『藤原・八木沢・磯鶏遺跡群』がある。宮古湾の西岸、八木沢丘陵に連続した小起伏山地上には、15～16世紀の天目茶碗や、青磁輪花皿が出土した金浜館を含む『高浜・金浜遺跡群』がある。また、宮古湾頭中央部に流入する津軽石川流域を含む豊間根丘陵上には、奈良時代の集落跡が確認された沼里遺跡や、製鉄関連遺構が検出された根井沢遺跡などが分布する『津軽石・根井沢遺跡群』がある。宮古湾の東岸には、平安時代の集落跡が調査された赤前遺跡を含む『赤前遺跡群』が形成されている。

宮古市の東部、重茂半島は山地が海岸部まで迫っていて、遺跡は小河川により形成されたわずかな平坦地や丘陵（海岸段丘）上に立地する。重茂川流域の鮎ヶ崎丘陵上には、縄文時代の遺跡や重茂館が分布する『重茂館遺跡群』がある。その南側には、縄文時代前期初頭の大集落跡が確認された千鷲遺跡などを含む『千鷲・石浜遺跡群』が形成されている。

内陸部を見ると、閉伊川の流域を北部と南部に分けることができる。南部には、蕨手刀が出土した松山館のほか、製鉄関連の資料が多数出土する遺跡が分布する『隠里遺跡群』がある。北部では、千徳丘陵上に遺跡が集中している。14世紀末頃築城された千徳城や城館跡が集中する『千徳城遺跡群』がある。その西側には、古墳時代末から奈良時代の群集墳が検出された長根古墳群を含む、奈良時代から平安時代を中心とする遺跡が多く分布する『長根・泉町・鴨崎遺跡群』が形成される。このほか、閉伊川支流の近内川流域の『近内地区』には、近内中村遺跡などの縄文時代の遺跡や城館跡が、北域の田代川流域の『田代地区』でも、縄文時代を中心とした遺跡が分布する。

これらの遺跡の分布状況を見ると、貝塚を含む縄文時代の遺跡は小本丘陵上の『崎山遺跡群』『鉄ヶ崎遺跡群』や、八木沢丘陵上の『藤原・八木沢・磯鶏遺跡群』に特に多いが、市内全域に分布する。奈良・平安時代になると、閉伊川流域・八木沢川流域・津軽石川流域の丘陵上に遺跡が集中してくる。また、中世・近世の遺跡を代表する城館跡も河川流域の丘陵上に多くみられる。このことから、縄文時代の遺跡は広く分布していたが、奈良時代以降は閉伊川流域などの河川流域に集中し、発展していったものと考えられる。その背景には、遺跡の形成された当時の自然環境や生活様式などが大きく影響したものと思われる。

女遊戸遺跡群

崎山遺跡群  
鉄ヶ崎遺跡群

藤原・八木沢・磯鶏遺跡群

高浜・金浜遺跡群

津軽石・根井沢遺跡群  
赤前遺跡群

重茂館遺跡群  
千鷲・石浜遺跡群

隠里遺跡群

千徳城遺跡群  
長根・泉町・鴨崎遺跡群

## 2. これまでの調査

昭和57年度から昭和60年度に実施された宮古市内遺跡群詳細分布調査の結果、崎山貝塚は学史的にも古くから中央の研究者に注目されており、豊富な動物遺存体や骨角器を包蔵し、これに伴う集落跡の存在が見込まれて、さらに保存状態も良好ということから重要な遺跡として再認識された。また、崎山貝塚を含む崎山遺跡群も、その内容・保存状態から宮古市内においても最も重要な遺跡群のひとつであるとされた。

### 崎山遺跡群発掘調査事業

ところが崎山地区では、開発行為などによる遺跡の緊急調査が増加する傾向にあった。そこで本市教育委員会では、崎山地区の遺跡群の内容を把握し、保存のための資料を収集することを目的として、国庫補助、県費補助を受けて『崎山遺跡群発掘調査事業』を策定した。昭和61年度から平成2年度までの5ヶ年を第Ⅰ期、平成3年度から平成5年度までの3ヶ年を第Ⅱ期として崎山貝塚の範囲確認調査と個人住宅建築などに先立つ緊急調査を実施してきた。これまでの8ヶ年間で、崎山貝塚の範囲確認調査は9次にわたる。また、個人住宅建築などに係る緊急調査も4遺跡で計9件をかぞえる。

### 宮古市内遺跡発掘調査事業

しかし最近では、個人住宅建築に先立つ緊急調査が市内全域に広がる傾向があり、対象地区を崎山地区から宮古市内へと拡大する必要が生じてきた。そこで、平成6年度から平成10年度までの5ヶ年を第Ⅰ期として『宮古市内遺跡発掘調査事業』を策定した。

## 3. 調査要旨

宮古市内遺跡発掘調査事業の初年度にあたる今年度の調査は、早稲栃Ⅱ遺跡第5次調査（個人住宅建築）と崎山貝塚第11次調査（内容確認調査）の2件である。総事業費は600万円である。

### ・早稲栃Ⅱ遺跡第5次調査 平成6年6月15日～7月29日

遺跡の南半部に位置し、縄文時代中期の竪穴住居跡1棟と縄文時代前期の土坑跡1基、そのほか縄文時代に伴う土坑跡と小ピット群を検出した。

### ・崎山貝塚第11次調査 平成6年9月12日～12月20日

崎山貝塚調査指導委員会により選定された台地中央部、台地西半部、南貝塚にて調査を実施した。

#### 台地中央部

中央広場とその周辺部の性格把握を目的とし調査区を設定したところ、前期初頭から後期前半にわたる竪穴住居跡・土坑跡・墓坑跡・配石遺構などが多数検出されたほか、中期中葉以降の土木工事の痕跡（掘削と盛土層）を確認した。

出土遺物は、第9次調査とは対照的に石皿の多出が特筆される。

#### 台地西半部（西集落）

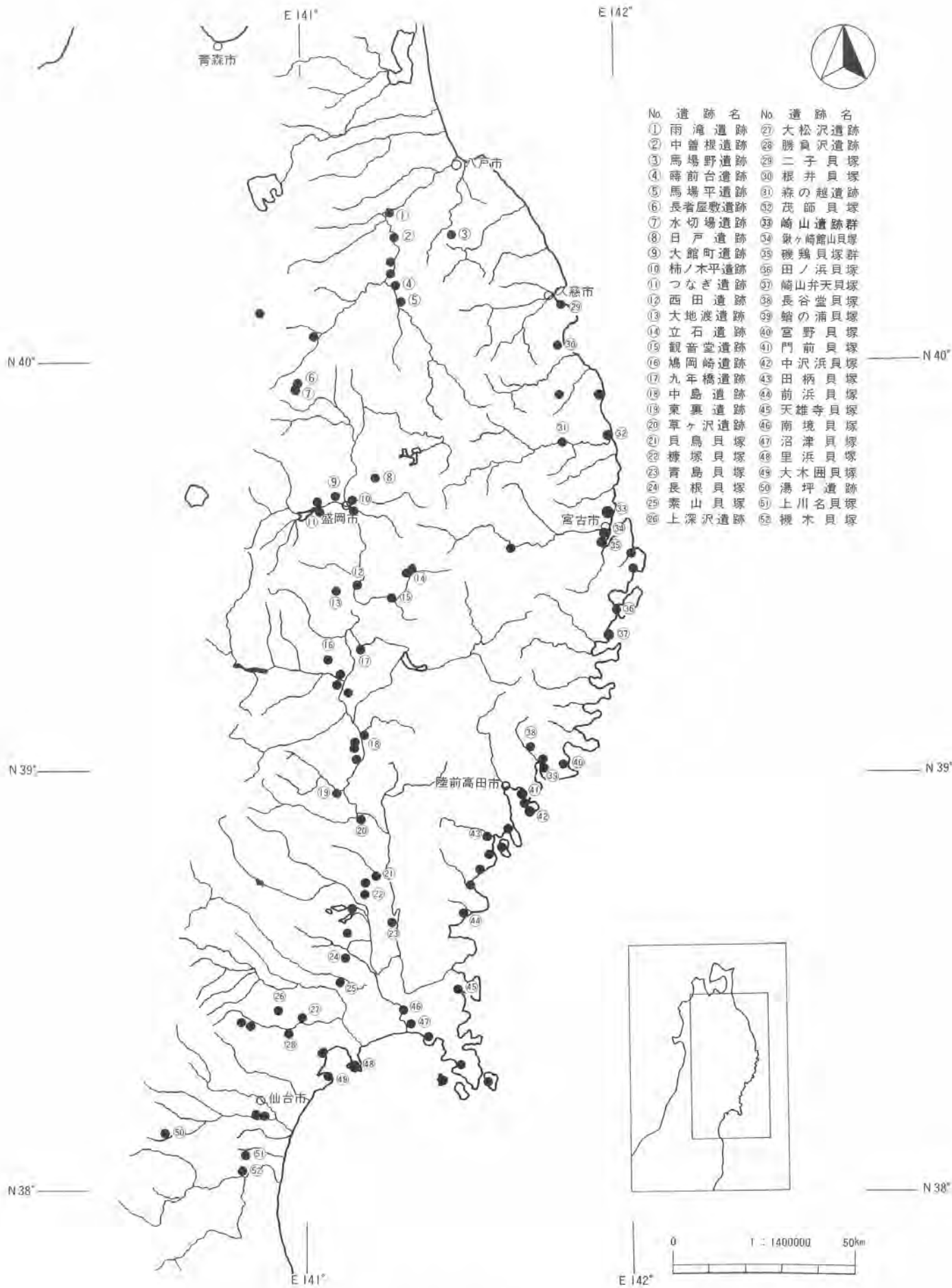
現在工場用地として利用されている地点に小規模なテストピットを設定し、遺跡の保存状態を確認した。

#### 南貝塚

台地南辺部分と南貝塚の関係を探るために第2次調査区の一部を再度調査した。

#### 〈現地説明会〉

市民および県内考古学研究者を対象とし、今年度の調査成果を報告する。参加人員100名。



- | No. | 遺跡名 | No. | 遺跡名 |
|-----|-----|-----|-----|
| ①   | 雨津  | 27  | 大松  |
| ②   | 中曾  | 28  | 大勝  |
| ③   | 馬場  | 29  | 負子  |
| ④   | 馬前  | 30  | 根井  |
| ⑤   | 長者  | 31  | 森の  |
| ⑥   | 水切  | 32  | 茂の  |
| ⑦   | 日戸  | 33  | 崎山  |
| ⑧   | 大館  | 34  | 兼ヶ  |
| ⑨   | 大桶  | 35  | 磯田  |
| ⑩   | つな  | 36  | 田ノ  |
| ⑪   | 西田  | 37  | 備山  |
| ⑫   | 大立  | 38  | 長谷  |
| ⑬   | 立石  | 39  | 船野  |
| ⑭   | 観音  | 40  | 宮前  |
| ⑮   | 岡崎  | 41  | 門前  |
| ⑯   | 九中  | 42  | 中田  |
| ⑰   | 東草  | 43  | 柄天  |
| ⑱   | ヶ島  | 44  | 前天  |
| ⑲   | 早貝  | 45  | 南天  |
| ⑳   | 棟青  | 46  | 境津  |
| ㉑   | 長島  | 47  | 沼津  |
| ㉒   | 素山  | 48  | 里木  |
| ㉓   | 深沢  | 49  | 大湯  |
| ㉔   |     | 50  | 上川  |
| ㉕   |     | 51  | 機   |
| ㉖   |     | 52  | 木   |

第1図 位置図



## 4. 調査体制

本年度の調査体制は次のとおりである。

|      |       |                            |
|------|-------|----------------------------|
| 調査主体 | 佐藤 勇逸 | 宮古市教育委員会教育長                |
|      | 松田 辰雄 | 宮古市教育委員会教育次長               |
| 調査総括 | 浦野 光廣 | 宮古市教育委員会社会教育課長             |
| 事務担当 | 田鎖 春雄 | 宮古市教育委員会社会教育係長             |
| 々    | 坂下 昇  | 宮古市教育委員会社会教育係庶務主査兼社会教育主事   |
| 調査員  | 竹下 将男 | 宮古市教育委員会社会教育係主任            |
| 々    | 高橋憲太郎 | 宮古市教育委員会社会教育係主任            |
| 々    | 鎌田 祐二 | 宮古市教育委員会社会教育係主任            |
| 々    | 橋本 晃一 | 宮古市教育委員会社会教育係主事            |
| 々    | 三浦 千秋 | 宮古市教育委員会社会教育係主事            |
| 々    | 阿部 豊  | 宮古市教育委員会社会教育係埋蔵文化財調査員（非常勤） |
| 々    | 工藤 剛司 | 宮古市教育委員会社会教育係埋蔵文化財調査員（非常勤） |

調査の実施にあたり次の方々から御協力をいただいた。（敬称略）

〈地権者〉 前田郁子、前川克夫、前川啓三、佐々木福司、鹿島道路(株)宮古出張所

〈発掘調査〉 前川友宏、伊藤晴男、大越貞蔵、吉田昭、北村忠治、佐々木茂実、菊池清八  
佐伯裕則、斎藤貞子、藤谷晶子、菅原テルミ、鈴木いそ子

〈整理作業〉 前川友宏、成田寿美江

### 崎山貝塚調査指導委員会

なお、今年度から崎山貝塚の調査全般について指導を受けるため、市単独事業として『崎山貝塚調査指導委員会』を設置している。構成は次のとおりである。

|     |                                 |                         |
|-----|---------------------------------|-------------------------|
| 委員長 | 鈴木公雄                            | 慶應義塾大学文学部教授             |
| 委員  | 西本豊弘                            | 国立歴史民俗博物館助教授            |
| 々   | 武井則道                            | (財)横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター |
| 々   | 工藤竹久                            | 八戸市教育委員会                |
| 々   | 三浦謙一                            | (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター  |
| 指導  | 文化庁文化財保護部記念物課<br>岩手県教育委員会事務局文化課 |                         |

事務局 宮古市教育委員会事務局

〈第1回 崎山貝塚調査指導委員会〉

- ・崎山貝塚調査指導委員会の発足
- ・事業計画の説明・承認
- ・崎山貝塚の概要説明及び現地視察
- ・平成6年度の調査地点の選定

〈第2回 崎山貝塚調査指導委員会〉

- ・平成6年度内容確認調査の概要報告
- ・調査結果の検討 ・現地視察



第2図 崎山遺跡群

## Ⅱ 調査内容

### 1. 早稲栃Ⅱ遺跡第5次調査

#### (1) これまでの調査

早稲栃Ⅱ遺跡は、宮古市のコードL G24-0020、岩手県のコードL G24-0020として登録された周知の遺跡である。

#### 第1次～第4次 調査

昭和61年度と平成3年度に市単独事業により、また、平成4年度、5年度には国庫補助事業により遺跡の南半部にて緊急調査を実施しており、それぞれ第1次～第4次と調査次数を冠してあるため、本年度の調査はこれに続けて第5次調査とした。

これまでの調査では、縄文時代の竪穴住居跡1棟、石囲炉2基、土坑跡6基および遺物包含層のほかに、時期不明の竪穴状遺構とウマを埋葬した墓墳跡などを検出している。

本年度の調査区は、第4次調査の北側に隣接している。調査区は、個人住宅建築により破壊される部分のすべてを対象として設定した。

#### (2) 基本層序

#### 層序

調査区内で確認された堆積層は8層に大別される。

I層は表土層で、やや明るい黒褐色粘質土を基本土とし、やや柔らかく、しまりが無い。調査区全体を覆っている。

II層はI層よりやや暗い黒褐色粘質土を基本土とし、やや柔らかく、しまりは中程度である。調査区の西側にのみ堆積する。この層は、第4次調査のII層に対応する。

III層は黒褐色粘質土を基本土とし、暗褐色土塊を含む。柔らかく、しまりが無い。調査区の西側に堆積する。第4次調査のIII層に対応する。

IV層は暗い黒褐色粘質土を基本土とし、明るい黒褐色土塊を含むほか炭粒を少量含む。やや柔らかく、しまりは中程度である。中央から西側に堆積する。

V層は東側を除く調査区全体に堆積する。Va層とVb層に細別される。Va層は、暗い暗褐色粘質土を基本土とし、明黄褐色のシルトを含む。固さは中程度で、ややしまりが無い。Vb層は黒褐色粘質土を基本土とし、褐色土塊を含む。やや固く、ややしまりが無い。

VI層は暗褐色粘質土を基本土とし、黒褐色土塊を含むほか礫を多く含む。固さは中程度で、ややしまりが無い。調査区の北西部には堆積しない。

VII層は黒褐色粘質土を基本土とし、暗褐色土塊のほか白色鉱物粒を含む。やや固く、ややしまりがある。

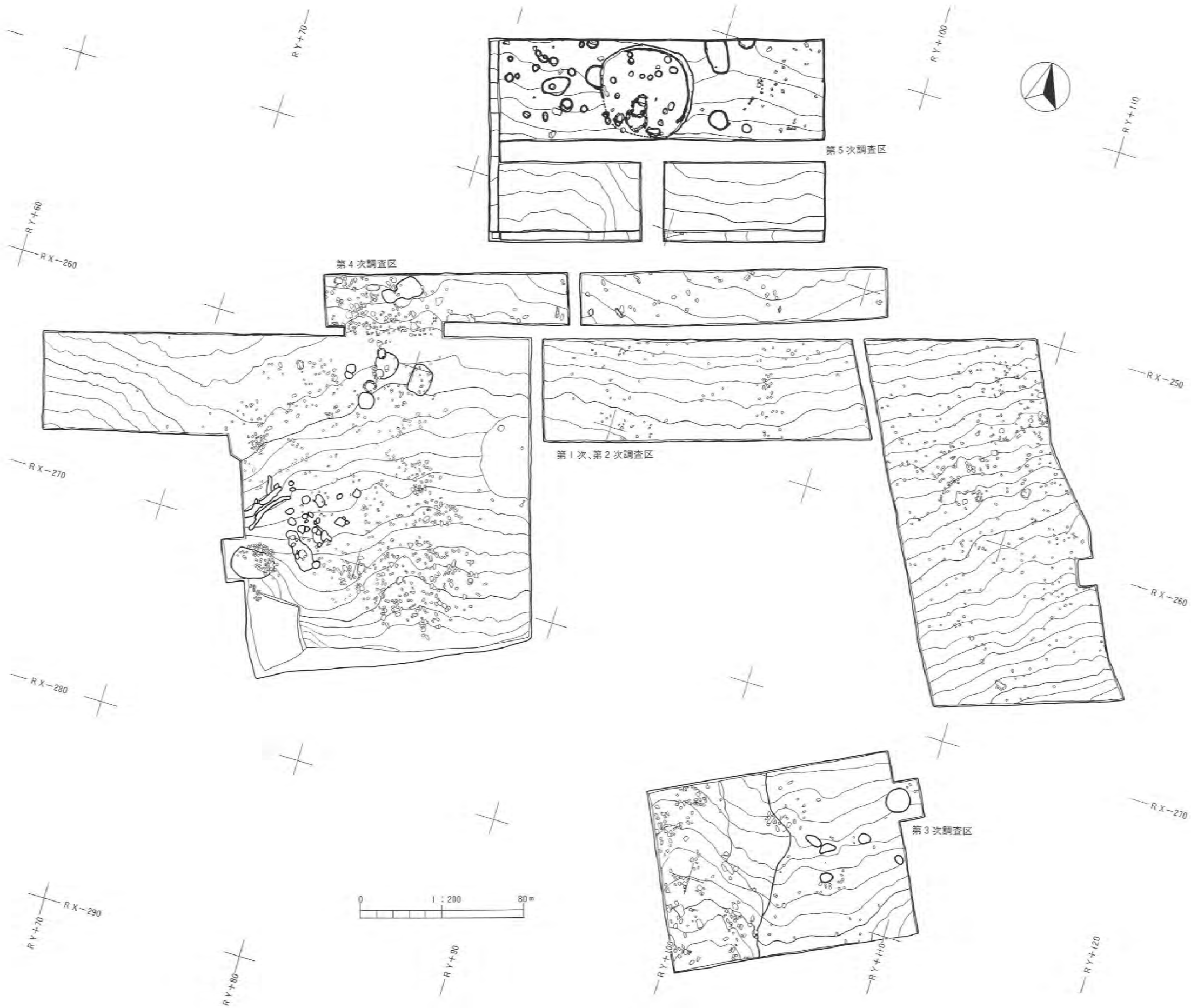
VIII層は黄褐色粘質土を基本土とし、褐色土とにぶい黄褐色土と灰赤色土を層状に含む。やや固く、ややしまっている。特に粘性が強い。VII層の漸移層。

#### (3) 遺構の検出状況

今回の調査で検出した遺構は、北部中央で第3号竪穴住居跡、その西側に第3号炉跡、調査区の北西部に小ピット群を、第3号住居跡の東側からは、前期の土器を伴う第7号土坑跡のほか、第8、9号土坑跡とP<sub>6</sub>を検出した。

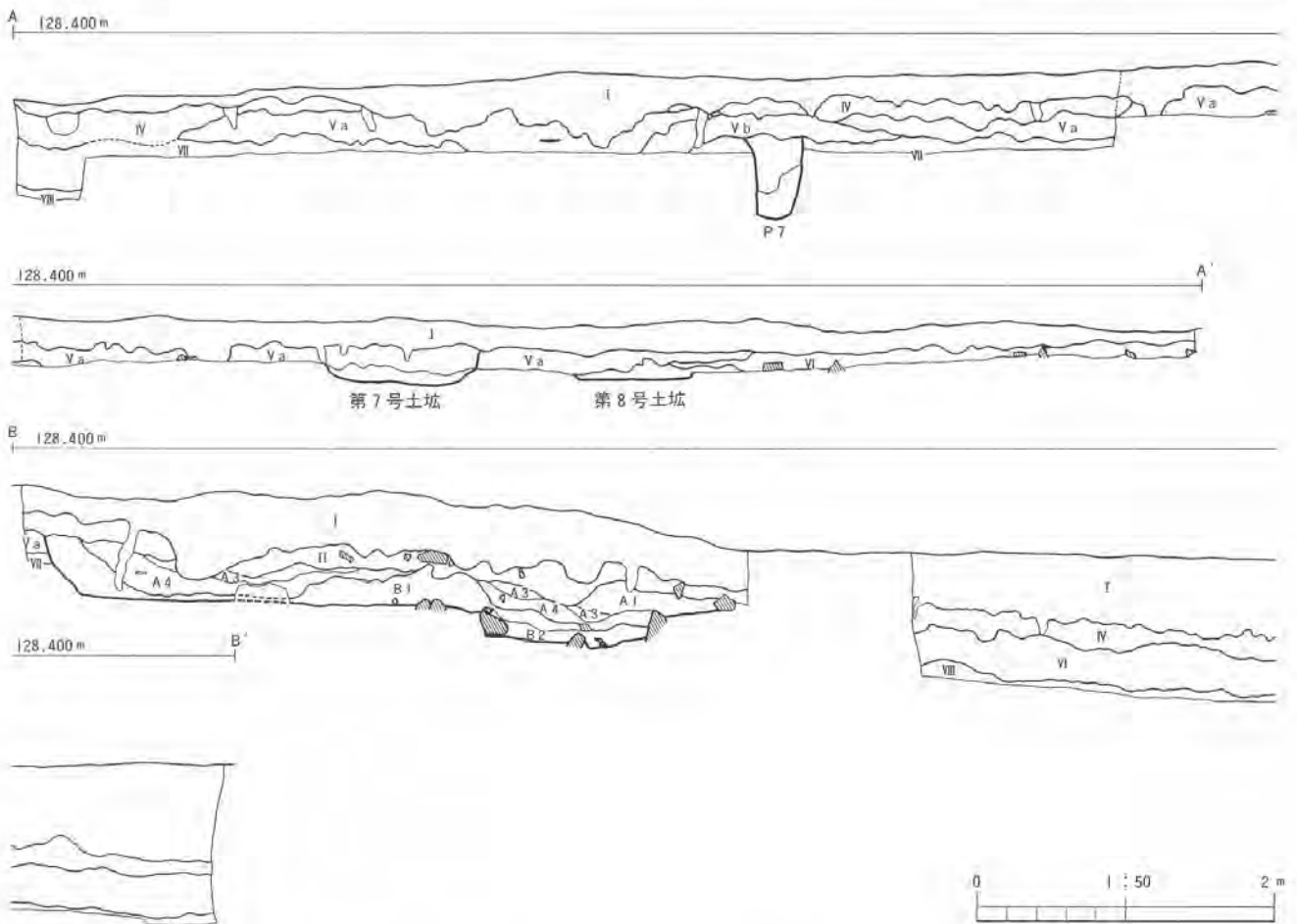
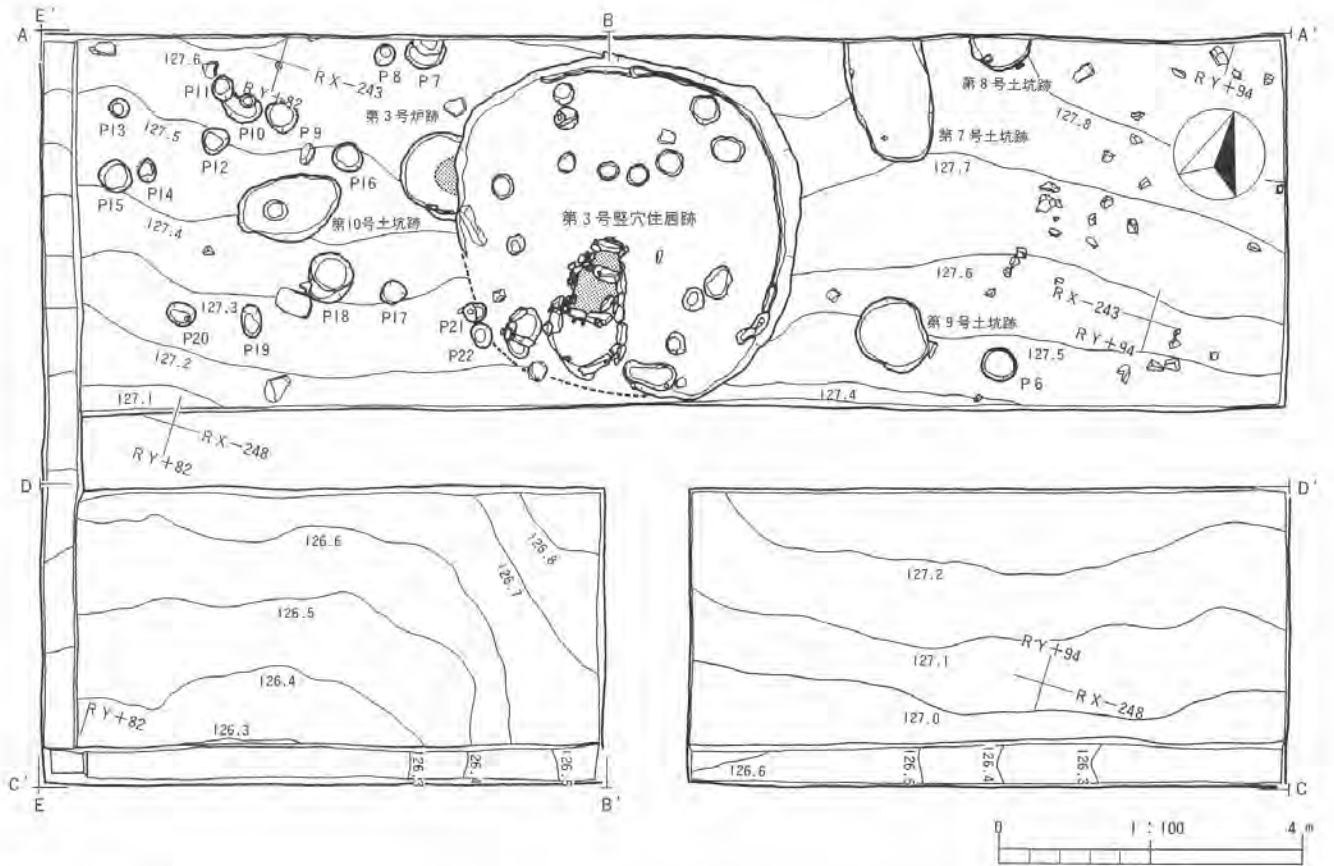
検出面は、第3号竪穴住居跡と第7、8号土坑跡がVa層で第9号土坑跡とP<sub>6</sub>がVI層、そ





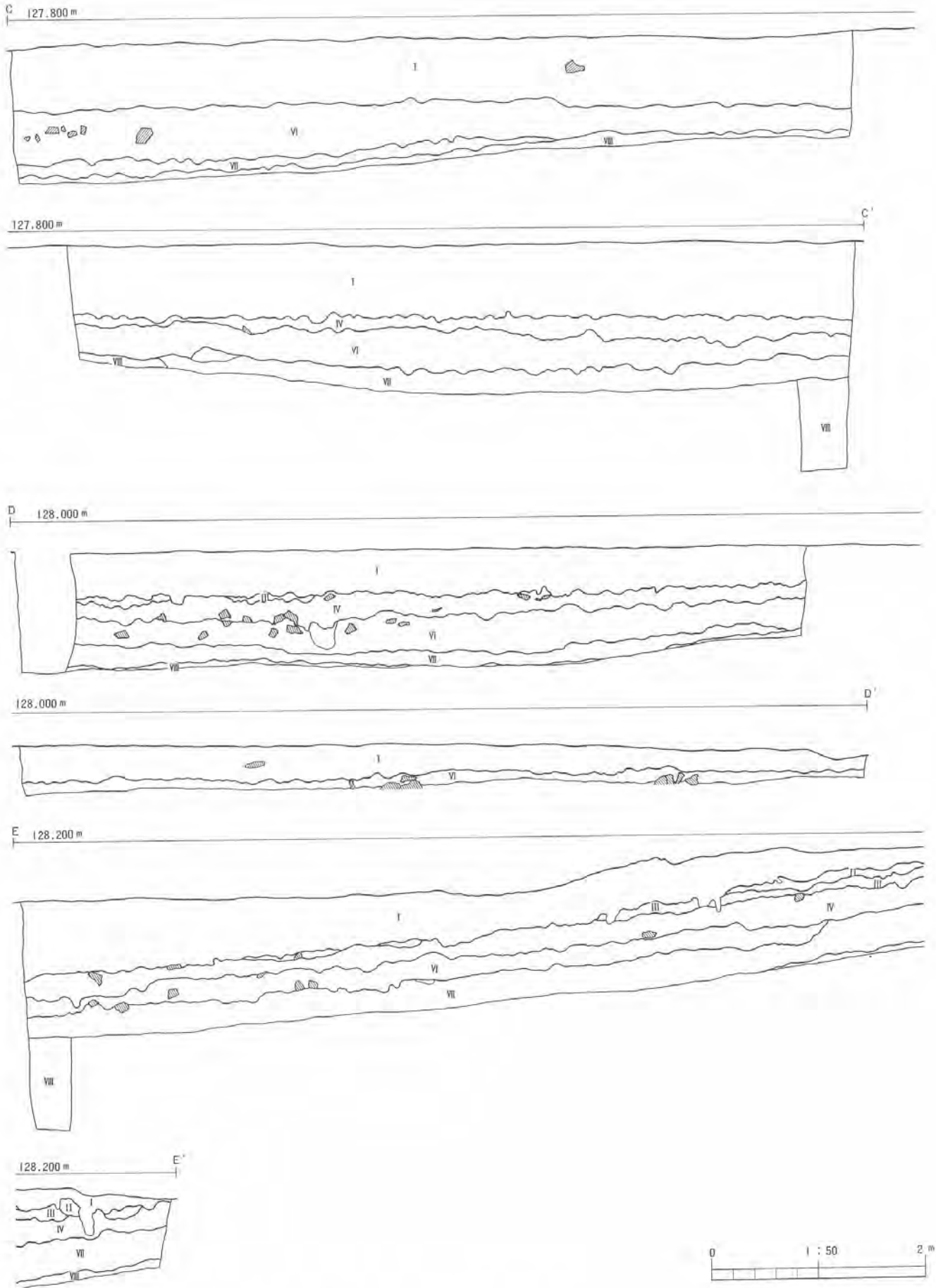
第3図 早稲枥Ⅱ遺跡検出遺構配置図





第4图 早稻枋Ⅱ遺跡第5次調査区・土層断面図(1)





第5図 早稲枋Ⅱ遺跡土層断面図(2)

の他のピットはⅦ層である。

#### (4) 検出された遺構・遺物

##### 第3号竪穴住居跡

調査区の中央北側に位置し、第3号炉跡を切っている。

平面形は不整の隅丸方形を呈し、規模は東西で4.30m、南北で4.30mを計る。壁高は北壁で0.39mで直壁であるが、東壁と西壁はやや外傾している。また、南西部の壁は消失している。主軸方向は南北の主軸方向からわずかに西へ振れる。柱穴と炉の主軸方向は、ほぼ一致する。

平面形・規模

埋土はA層とB層に大別される。A<sub>1</sub>層はやや暗い黒褐色土で、南部にのみ堆積する。A<sub>2</sub>層はA<sub>1</sub>層よりも暗い黒褐色土層でやや明るい黒褐色土塊を含むほか、炭を微量含む。遺物の出土が多い。A<sub>3</sub>層もやや暗い黒褐色土を基本土とし、褐色土塊を含む。A<sub>4</sub>層はA<sub>3</sub>層よりやや明るい黒褐色土で、明るい黒褐色土塊を含み、炭も多い。A<sub>5</sub>層はB層に近いが暗い黒褐色土塊を含み、北部にのみ堆積する。B<sub>1</sub>層は明るい黒褐色土層で、暗い黒褐色土塊と褐色土塊、白色鉱物粒を含む。土器の出土量も多く、ほぼ完形の土器も出土している。B<sub>2</sub>層は炉の埋土で、黒褐色土を基本土とし、炭層を含む。

埋土

床面は、ほぼ平坦で固くしまっている。貼床は認められない。

床面

柱穴は竪穴住居跡の中央部からやや北寄りに方形に配されたHP<sub>1</sub>～HP<sub>4</sub>が主柱穴に相当する。HP<sub>1</sub>～HP<sub>3</sub>は柱痕跡が確認されたことと、HP<sub>4</sub>については柱穴痕は確認されなかったが、その配置から主柱穴と判断した。柱間寸法はHP<sub>1</sub>～HP<sub>2</sub>が<sup>φ</sup>1.08m、HP<sub>2</sub>～HP<sub>3</sub>が<sup>φ</sup>1.04m、HP<sub>3</sub>～HP<sub>4</sub>が<sup>φ</sup>1.22m、HP<sub>1</sub>～HP<sub>4</sub>が<sup>φ</sup>0.90mである。HP<sub>5</sub>～HP<sub>6</sub>の小ピットは、柱穴状であるが、柱痕跡が確認できなかった。また、HP<sub>5</sub>～HP<sub>7</sub>は非常に浅く、他のピットに比べ径の大きいピットである。

柱穴

炉は石組複式炉で、南壁のほぼ中央に位置する。炉の各部をⅠ部・Ⅱ部・Ⅲ部として説明する。

炉

Ⅰ部は方形の石囲炉で、東西0.35m×南北0.22mを計る。炉床は焼成を受けている。Ⅱ部も方形の石囲炉で、東西0.44m×南北0.49mを計る。Ⅰ部と同様に焼成を受けている。Ⅲ部は石囲前庭部で、東西0.71m×南北0.58mを計る。焼成は全く受けていない。

炉の構築方法は、Ⅰ～Ⅲ部の全体を掘り下げた後、炉石を据えながら構築土をつめている。

また、石組複式炉の東側には、石囲の土坑跡（HP<sub>15</sub>）が、その反対側の位置には、楕円形の土坑跡（HP<sub>14</sub>）もみられる。この2基の土坑はその配置と形態から炉に付属する施設と考えられる。

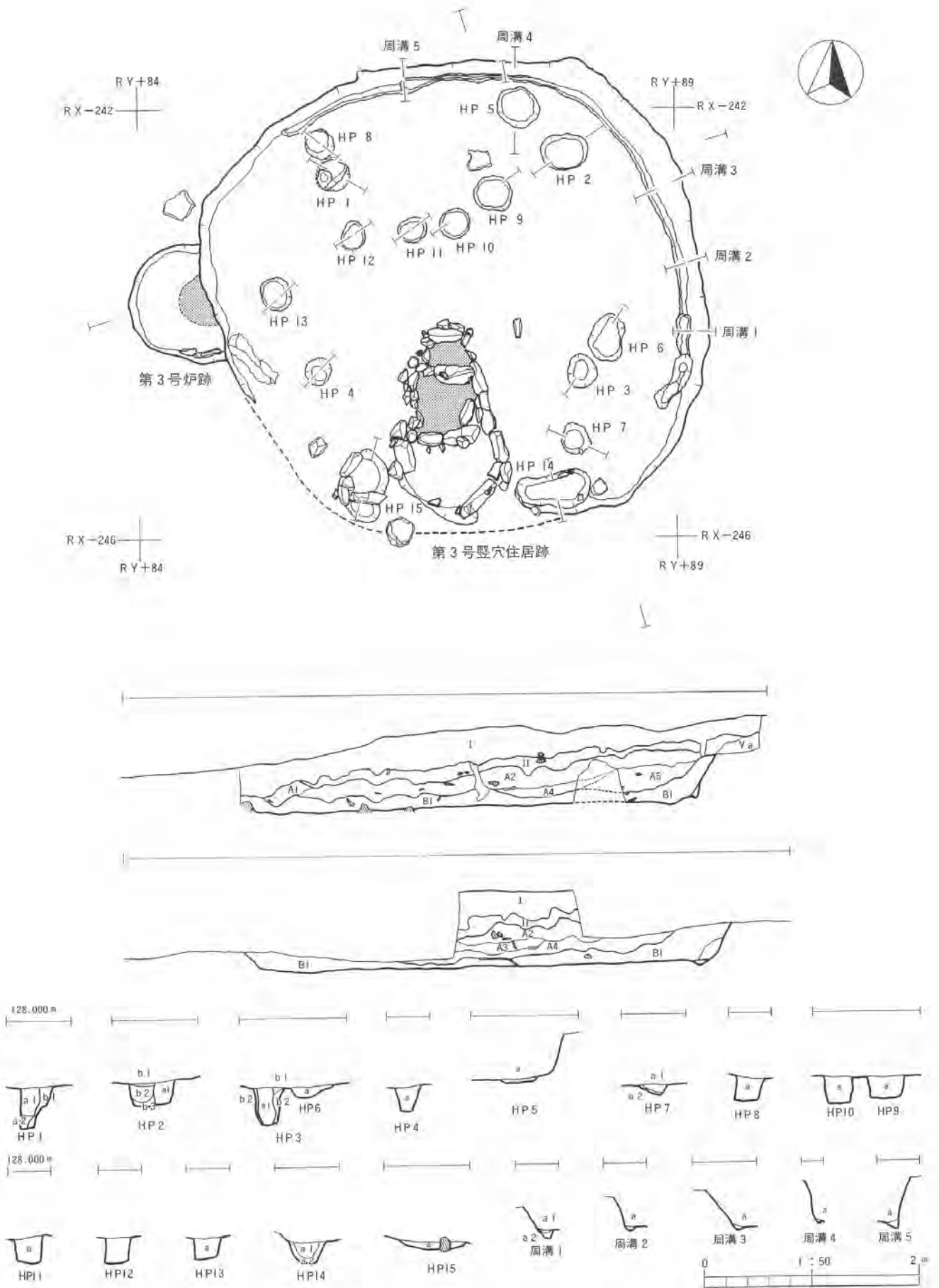
周溝は東壁から北壁にかけて、平均幅0.1m×平均深0.01mでめぐる。

周溝

遺物の出土量は、比較的多かったが、特にA<sub>2</sub>層とB<sub>1</sub>層に多い。

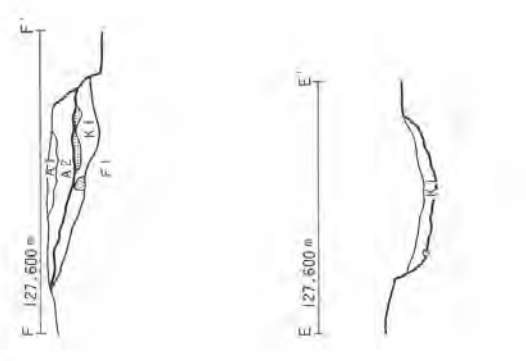
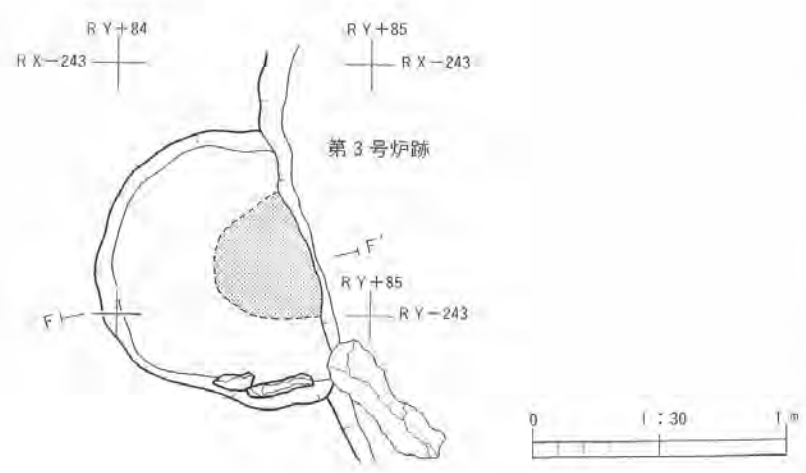
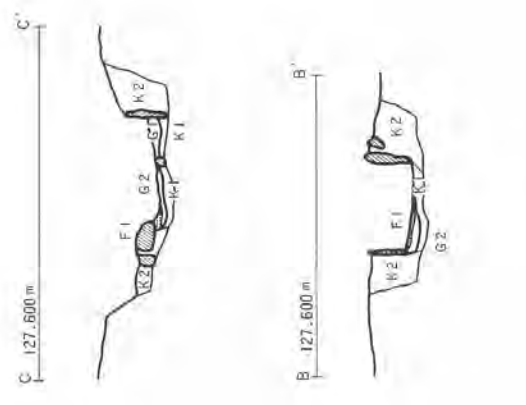
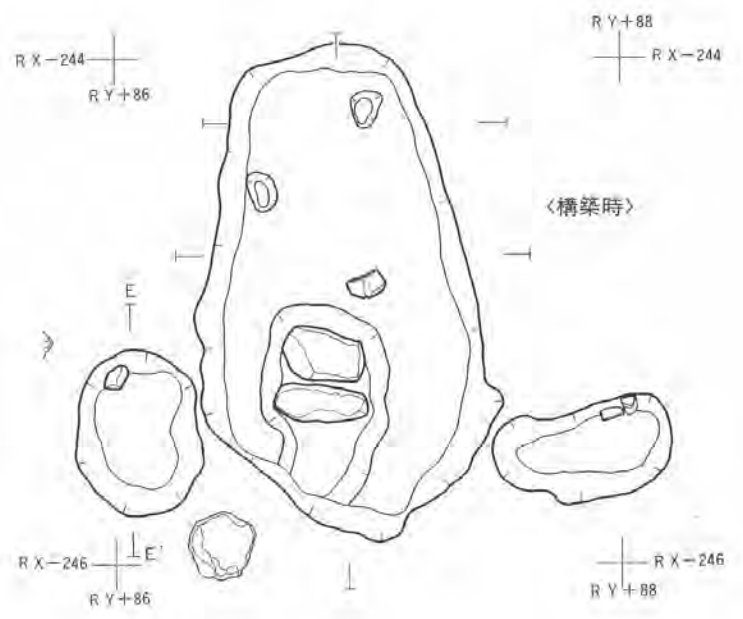
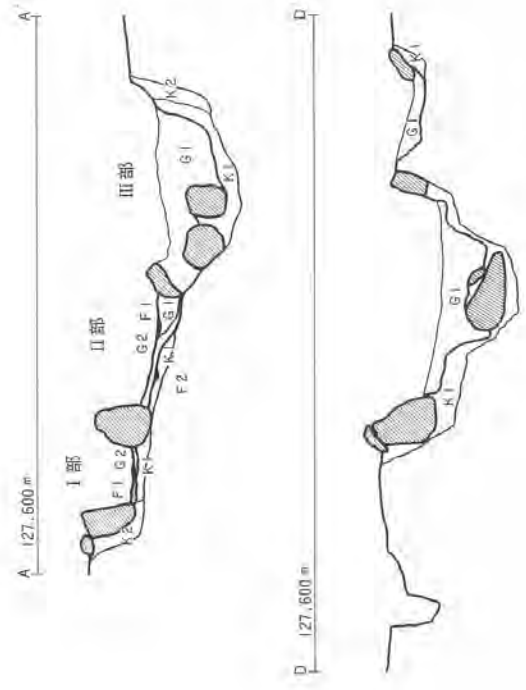
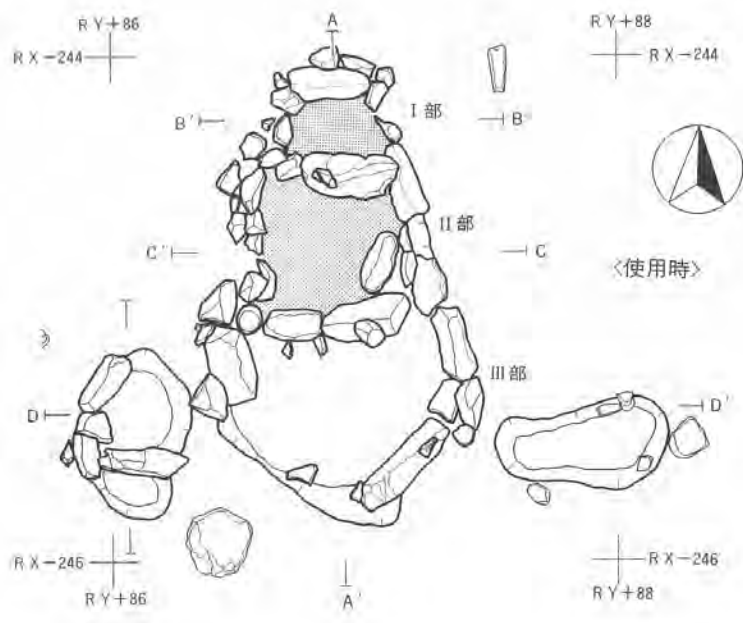
第9図6は、口縁部がやや外反し、頸部がわずかにくびれる深鉢で、口縁部に4つの波頂を持つ。底部は欠損している。口縁部文様帯には、2列の連続刺突文と縄文を全周に施している。また、頸部と体部の文様帯の境目に沈線をめぐらせている。体部文様帯は、3単位の逆U字文の下端を連結させた区画文と、2単位のU字文の上端を連結させた区画文とで構成され、いずれも磨消縄文で施文されている。

土器



第6图 第3号竖穴住居跡·第3号炉跡 (1)





第7図 第3号竖穴住居跡炉・第3号炉跡 (2)

7は、口縁部がやや外反し、頸部がわずかにくびれる深鉢である。口縁部に竹管による刺突文とその下部に沈線が施文されている。体部文様帯は、3単位の逆U字状の区画文からなり、磨消縄文で施文される。また、逆U字状の区画文の間に、沈線と竹管による刺突文とで施文される区画文がある。

10~11は、刺突文により施文される口縁部で、6・7に類似する。また、12・15~17・19~25・28は、モチーフは不明であるが沈線による磨消縄文で施文され、これも6・7の体部の文様と同様である。

9は、口縁部文様帯に横位に楕円形の区画文が施される浅鉢である。体部文様帯は隆起線を伴う磨消縄文で施文される。外面に漆が付着している。13・16も隆起線による磨消縄文で施文され、特に13は、外面に漆が付着しており、9と同一個体の可能性もある。

29は頸部につく把手部で上部が穿孔されている。

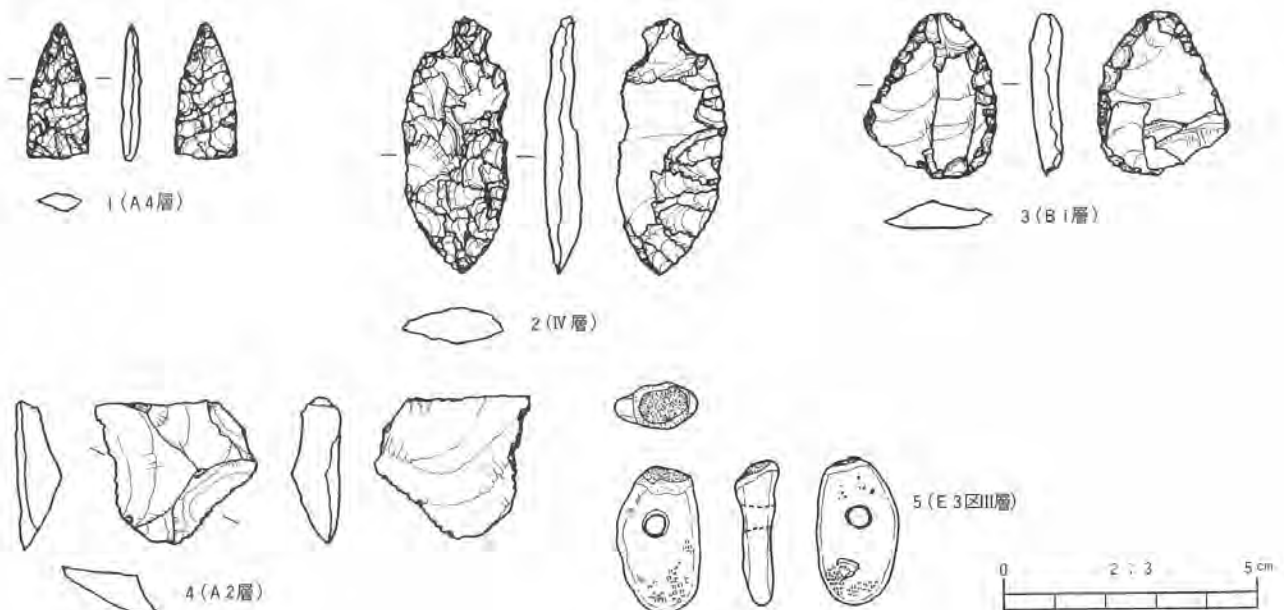
8は小型の鉢で、無節斜縄文(ℓ)を縦方向に回転させて施文している。

第8図1は、無茎の石鏃である。平基で形態は二等辺三角形を呈する。2は縦型の石匙である。3は不定形の石器で側縁に両面からの調整剥離を有する。4も不定形の石器で側縁に細かい調整剥離を有する。5は穿孔された楕円形の石製品である。垂飾品と考えられるが、上部にアスファルトが付着していることから、何か他のものに接着していた可能性もある。このほか、磨製石斧や、敲打磨石が出土している。

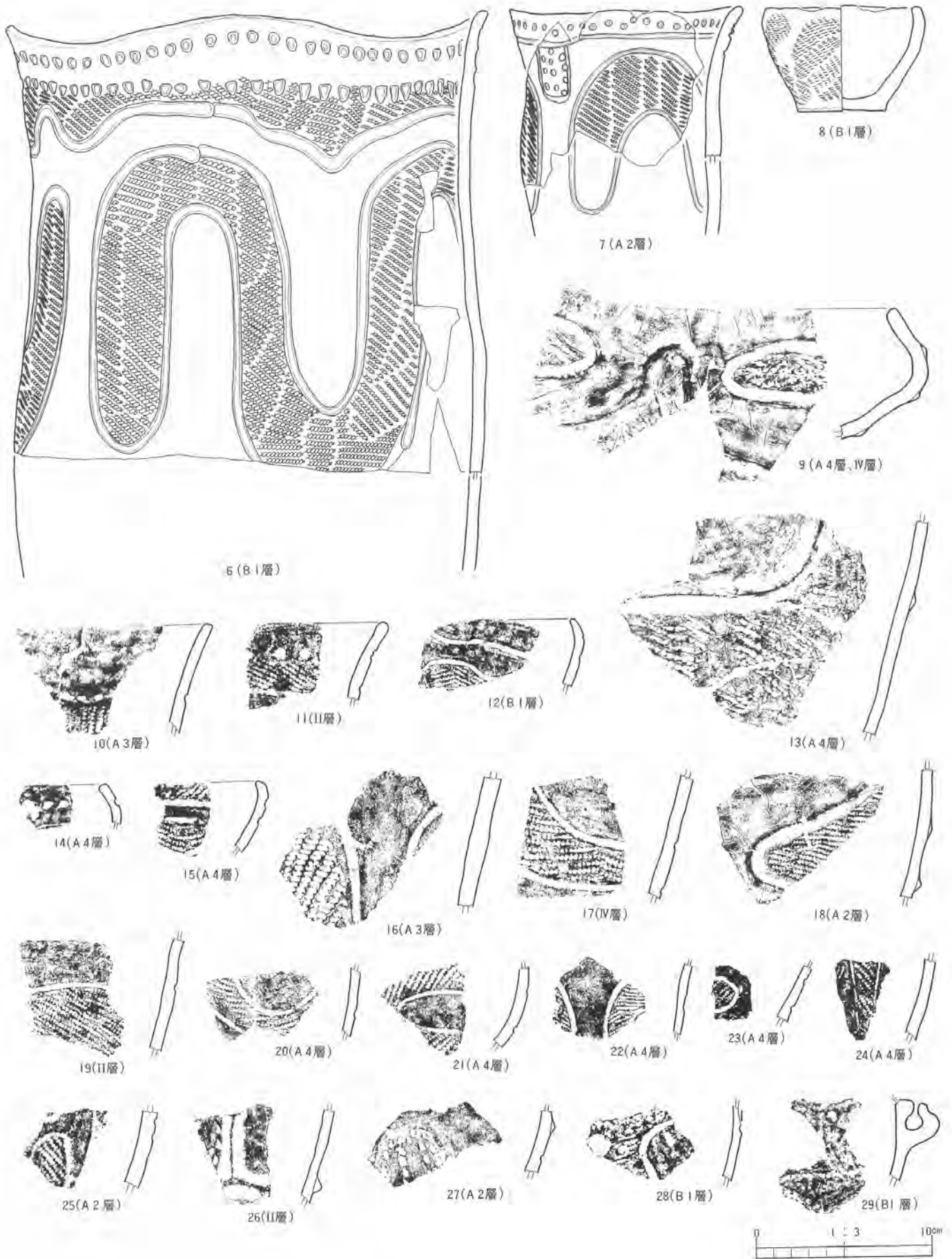
### 第7号土坑跡

平面形は、一部調査区外となるが、楕円形である。規模は1.05m×1.75m以上を計る。埋土はA層とB層に分けられ、A層は、暗褐色粘質土を基本土とし、黒褐色土塊を少量含む。固さは中程度で、ややしまりが無い。B層はやや暗い黒褐色粘質土を基本土とし、暗褐色土塊を含むほか、黄白色、青褐色の鉱物を多く含む、やや固く、ややしまりが無い。

遺物は、A層から体部にS字状連鎖沈文を施す深鉢が出土している。口縁部には、全周にわたって粘土紐を張り付け、それに刺突文を施している。大木2b式に伴うものである。



第8図 第3号竪穴住居跡出土遺物(1)



第9図 第3号竖穴住居跡出土遺物(2)

#### 第8号土坑跡

土坑全体のおよそ半分が、調査区からはずれているため、平面形は不明であるが円形か楕円形と考えられる。埋土はA層のみで、黒褐色粘質土を基本土とし、固さ、しまりとも中程度である。

#### 第9号土坑跡

平面形は円形で、規模は径1.00m、深さ0.18mを計る。埋土はA層のみで、黒褐色粘質土を基本土とし、固さ、しまりとも中程度である。

#### 第10号土坑跡

平面形は、不整楕円形である。規模は1.38m×0.86mで深さ0.20mを計る。埋土はA層のみで、やや暗い黒褐色粘質土を基本土とし、やや固く、ややしまりが無い。

#### 小ピット

P<sub>6</sub>～P<sub>11</sub>、P<sub>16</sub>、P<sub>20</sub>は、比較的浅く、埋土はやや明めの黒褐色粘質土を基本土とする。やや固く、しまりは中程度である。

P<sub>15</sub>～P<sub>17</sub>・P<sub>19</sub>・P<sub>22</sub>は、比較的深さもあり柱穴状を呈しているが、柱痕跡は確認できなかった。P<sub>15</sub>・P<sub>16</sub>・P<sub>22</sub>の埋土は、黒褐色粘質土を基本土とし、やや固く、しまりは中程度である。

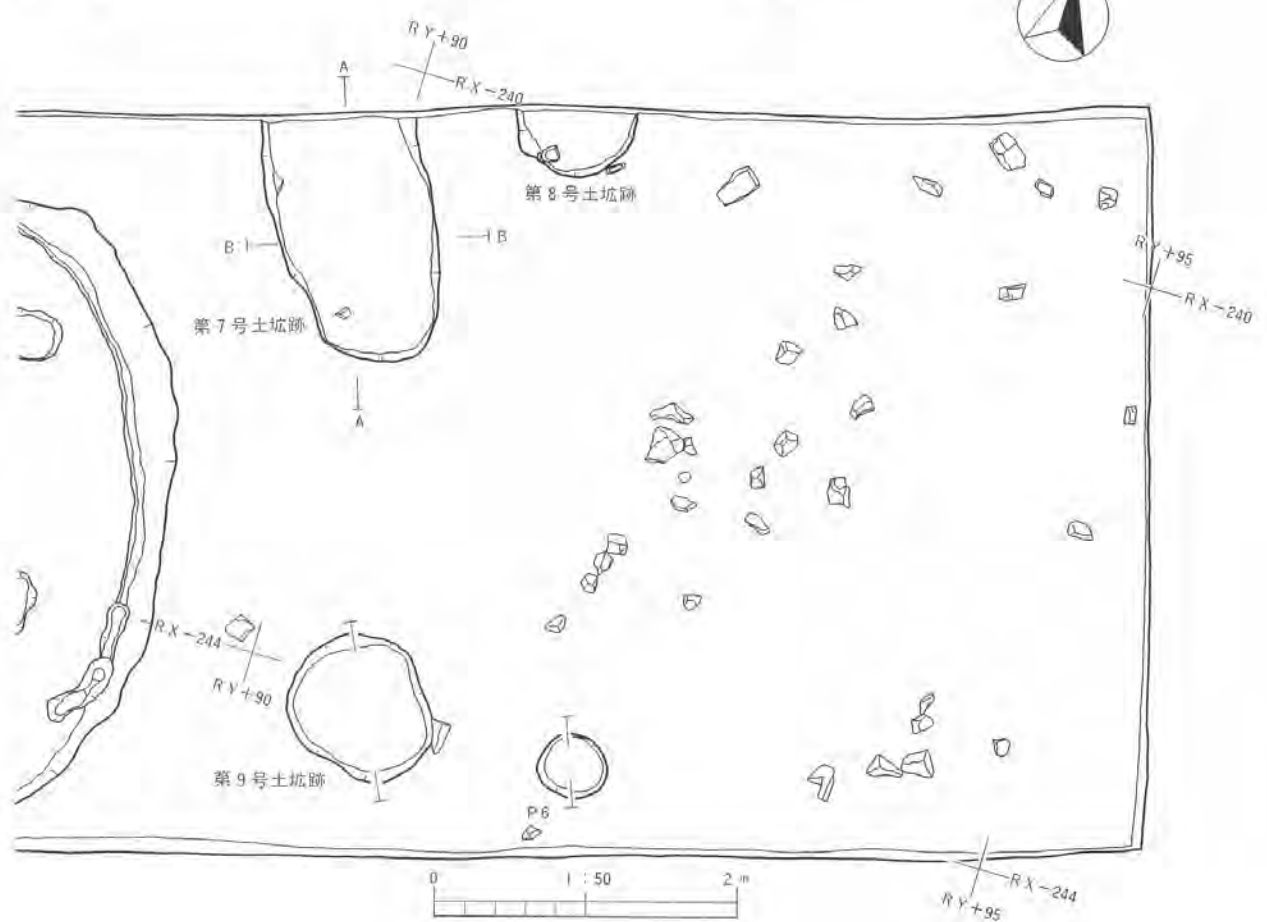
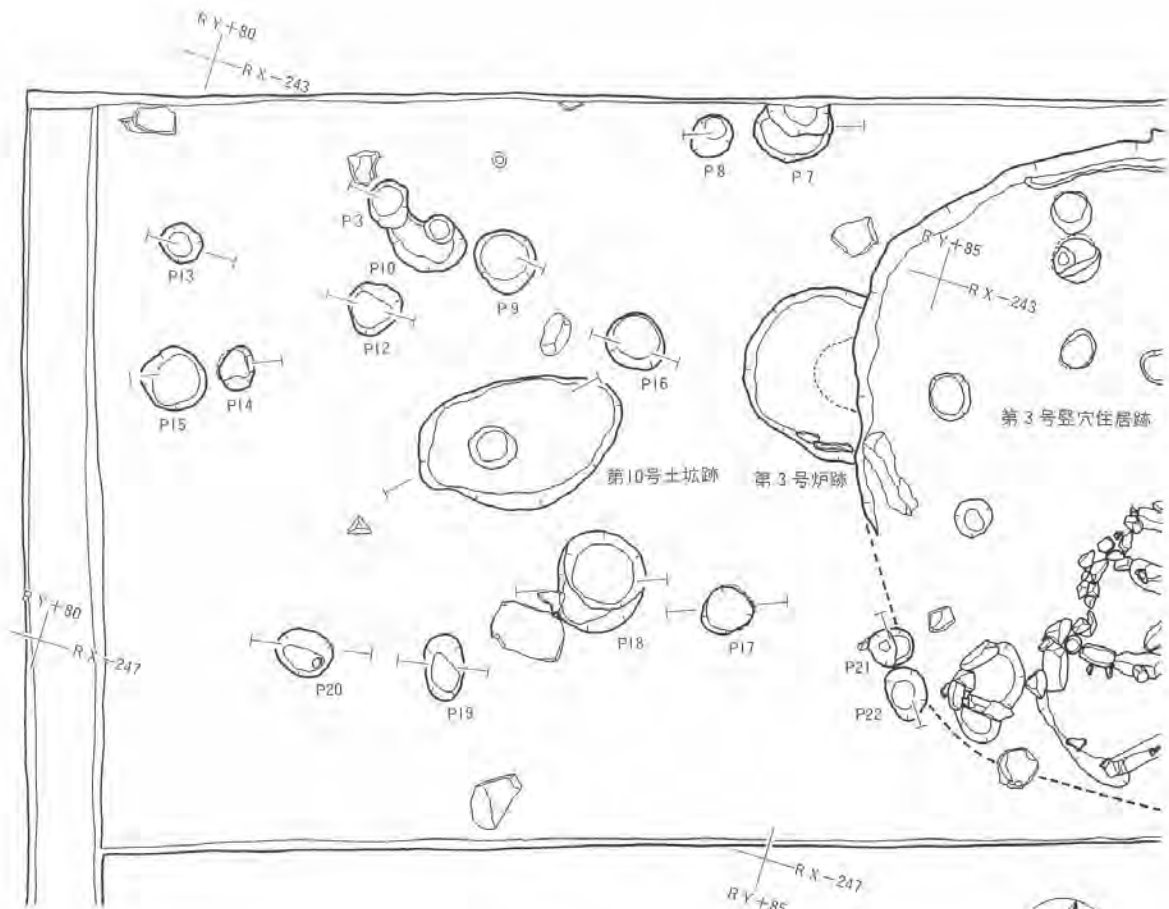
P<sub>17</sub>・P<sub>19</sub>の埋土は、暗い黒褐色土を基本土とし、固さは中程度で、ややしまりが無い。

P<sub>12</sub>も柱穴状だが柱痕跡は確認できなかった。埋土はa1層とa2層に分けられる。a層は黒褐色土を基本土とし、やわらかく、ややしまりが無い。a2層はa1層より明るい黒褐色粘質土を基本土とし、固さ、しまりともに中程度である。d1層は、Ⅷ層を掘りすぎたものである。

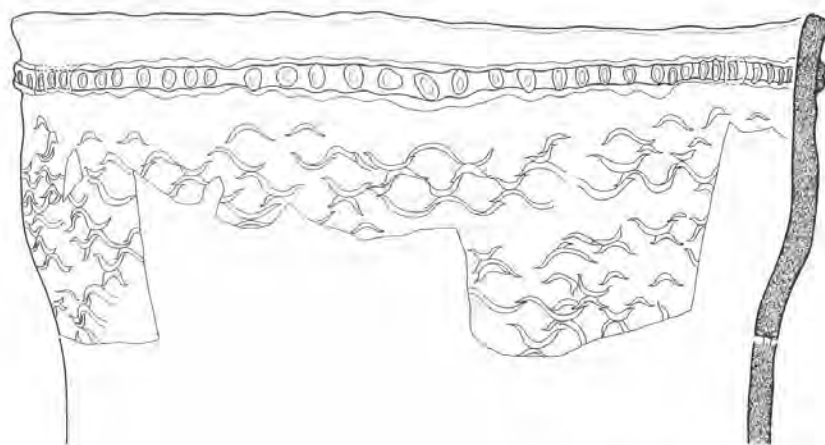
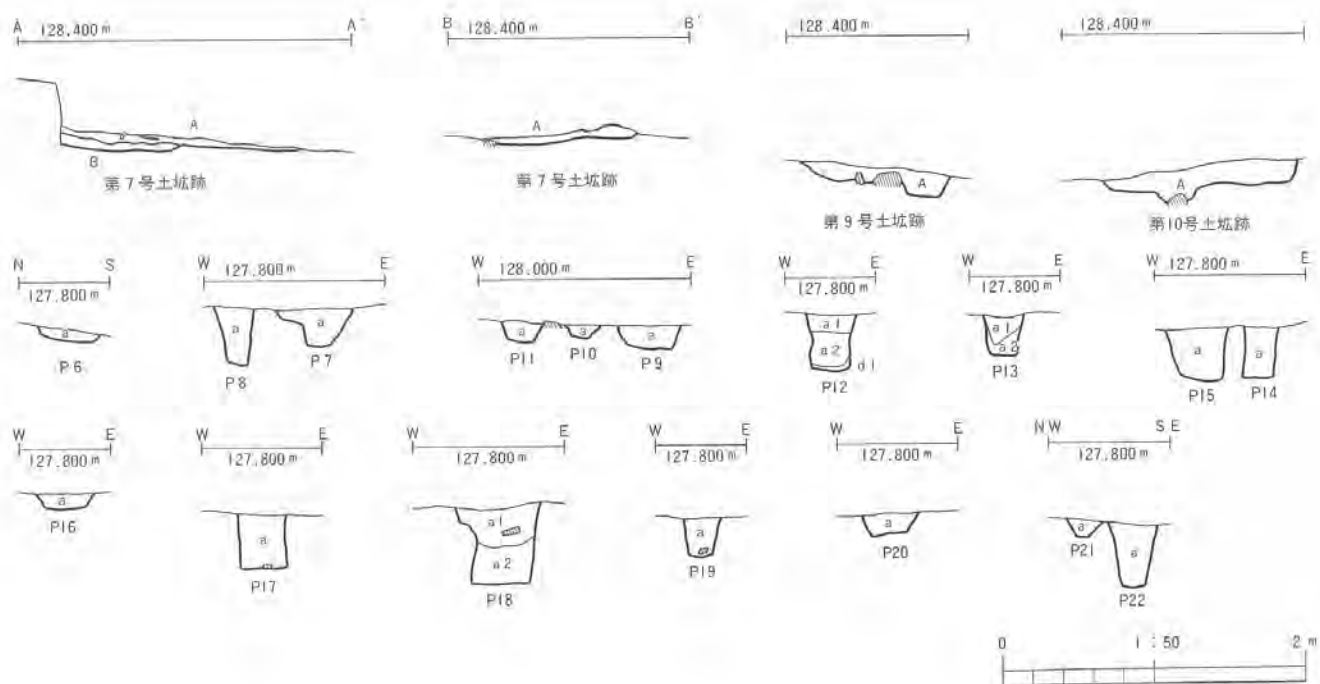
P<sub>15</sub>はa1層とa2層に分けられる。a層は黒褐色粘質土を基本土とし、固さは中程度でややしまりが無い。a2層は暗褐色土を基本土とし、やや固く、ややしまりが無い。

P<sub>18</sub>も柱痕跡は確認できなかった。a1層は暗い暗褐色土を基本土とし、a2層は、a1層よりやや明るい黒褐色粘質土を基本土とする。a1層・a2層ともにしまりは中程度で、ややしまりが無い。

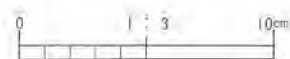




第10図 土坑跡・ピット類平面図



B1区第7号土坑跡、A層



第11図 土坑跡・ピット類土層断面図・出土遺物



第12図 崎山貝塚地形図





## 2 崎山貝塚第11次調査

崎山貝塚は今年度より『崎山貝塚調査指導委員会』（以下指導委員会とする）の指導に基づき内容確認調査を実施している。これまでの8ヶ年にわたる範囲確認調査の結果、各地点毎の遺構内容や貝層等の構成物及び遺跡としての範囲といった基本的事項についてはほぼアウトラインをつかむことができた。これらの成果を指導委員会にて検討していただき、これまでの調査でなお性格や内容の不明瞭な地点を選定していただき内容確認調査を実施していくこととした。さらに、あわせて全国的な視野に立った上で崎山貝塚の総合的な評価をしていただくこととした。

指導委員会での指摘事項のなかで短期的な課題としては、集落跡の中心部である「中央広場」と「環状遺構帯」の性格とその変遷過程を明確にすることと、破壊をまぬがれて遺構が残されている西端のラインを明確にすることの2点が上げられ、また、中長期的な課題としては南北両斜面に形成された貝塚の形成時期と構成内容を明確にすべき点が上げられた。

このため、今年度は中央広場から環状遺構帯南部にかけて幅12mのトレンチ（A地区）を設定し、西集落西部の工場用地内に1m×1mのグリッドを4ヶ所（B地区）を設定した。

A地点では中央広場西半部には多数の土坑跡が検出され、このうち大木8a式～大木8b式期の墓塚跡4基、大木8b式期～大木10式期の土坑跡15基を精査した。この結果、中央広場は当初は墓域として形成され、やがてフラスコ状土坑などの土坑域へと変容していったことが判明した。

また、この地点での環状遺構帯はこれまでの知見と異なり溝状とはならず外縁が斜面に抜ける段状の構造をとり、その外縁部には大木8b式期の盛土層が環状に形成されていることが判明した。また、遺構との重複関係からも環状遺構帯の形成時期がほぼ大木8b式期に確定した。

やがて大木9式～後期にかけて環状遺構帯の埋没に伴いフラスコ状土坑跡などが多数掘り込まれるとともにブロック毎に墓塚域や配石遺構域を形成していることが判明した。さらに大木10式期～後期にかけては外縁部付近に堅穴住居跡が検出されており、当初は東と西に対峙するように形成された居住域が次第に内側に寄り、最終的には環状となる可能性が極めて大きくなった。

さらに、A区南端部には盛土層の下に前期に伴う遺構として大木1式期の土坑跡が確認され、この周辺部に既期の集落跡が形成されている可能性が大きくなった。

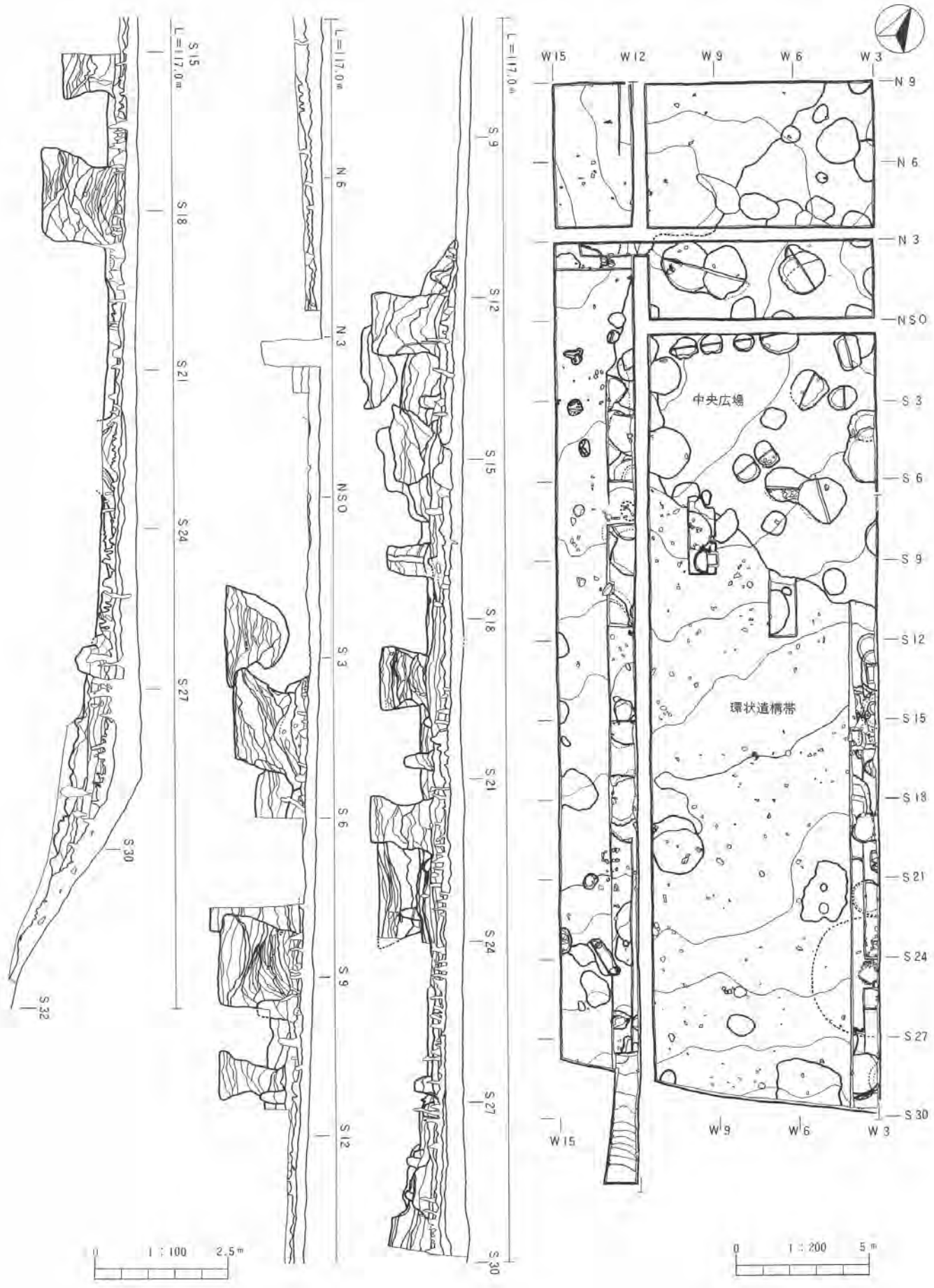
B地区については工場が操業中ということもあり小規模な調査に留まったが、谷と思われる旧地形が残されている地点や、堅穴住居跡の伴出遺物と思われる土器等が密集する地点が確認された。この結果、工場用地内は意外に保存状態が良好で、東側と南側を中心に敷地内の1/3程度が保存されていることが判明した。同時に、遺跡として保存されている西端のラインもつかむことが出来た。

なお、これらの調査内容については別途刊行する『崎山貝塚－範囲確認調査報告書－』に報告してあるので参照されたい。

崎山貝塚調査指導委員会

中央広場

環状遺構帯



第13図 崎山貝塚第11次調査区

### Ⅲ 調査のまとめ

#### 1. 早稲枋Ⅱ遺構第5次調査

これまでの調査結果から、この遺跡が縄文時代の集落跡であることは確認されていたがその実態は不明のままである。

今回の調査では、出土遺物などから、縄文時代中期末葉の竪穴住居跡1棟、縄文時代前期の土坑跡1基、そのほかに縄文時代に伴う土坑跡と小ピット群が検出された。このことから、この遺跡の集落は縄文時代前期から中期にかけて営まれたものと想定される。

未だに集落構成などは不明であるが、遺構のほとんどが調査区の北側の西寄りに集中していることや、その地区の土層の堆積が厚く良好なことから、集落はさらに北へ広がるのではないかと考えられる。

#### 2. 崎山貝塚第11次調査

今回の調査により環状遺構帯は大木8b式期に中央広場を削り残す形で掘り込まれ、南端部に環状の盛土層を形成していることが判明した。当初は中央広場は墓域として形成され、環状遺構帯は中央広場を区画する施設あるいは土坑域として形成されたものと思われる。

やがて、大木9式から後期にかけて環状遺構帯の埋没に伴い、中央広場から環状遺構帯にかけて一体となりブロック毎に墓域・配石遺構・土坑域が、しかも重層的に形成していることが判明した。さらに、最終段階には竪穴住居跡が外縁部分に進出し、環状構造となる可能性も指摘したが、中心部については最終時まで居住域とされることはなかった。

また、1基のみではあるが、前期初頭の遺構が検出されたことも特筆される。これらの結果、崎山貝塚自体が前期から後期の長期にわたり複雑な遺構変遷を繰返しており、しかも各ステージ毎の内容がほぼ判明するというほかにあまり例をみない遺跡であることが判明した。

来年度は指導委員会の選定によりA地点の北側での調査を実施し、集落跡中心部の内容をより深めるとともに、工場用地内で大規模な調査を実施し、西集落の内容をつかむ予定である。

最後に、今年度の調査にて崎山貝塚の重要性がより際立ってきたものと思われるが、今後はこの保存策についても関係機関の指導を得ながら準備を進めていく所存である。





写 真 图 版







早稲栃Ⅱ遺跡 第3号竪穴住居跡



第3号竪穴住居跡 埋土堆積状況



## 第2図版



第3号竖穴住居跡・炉（使用時）



第3号竖穴住居跡・炉構築土層断面



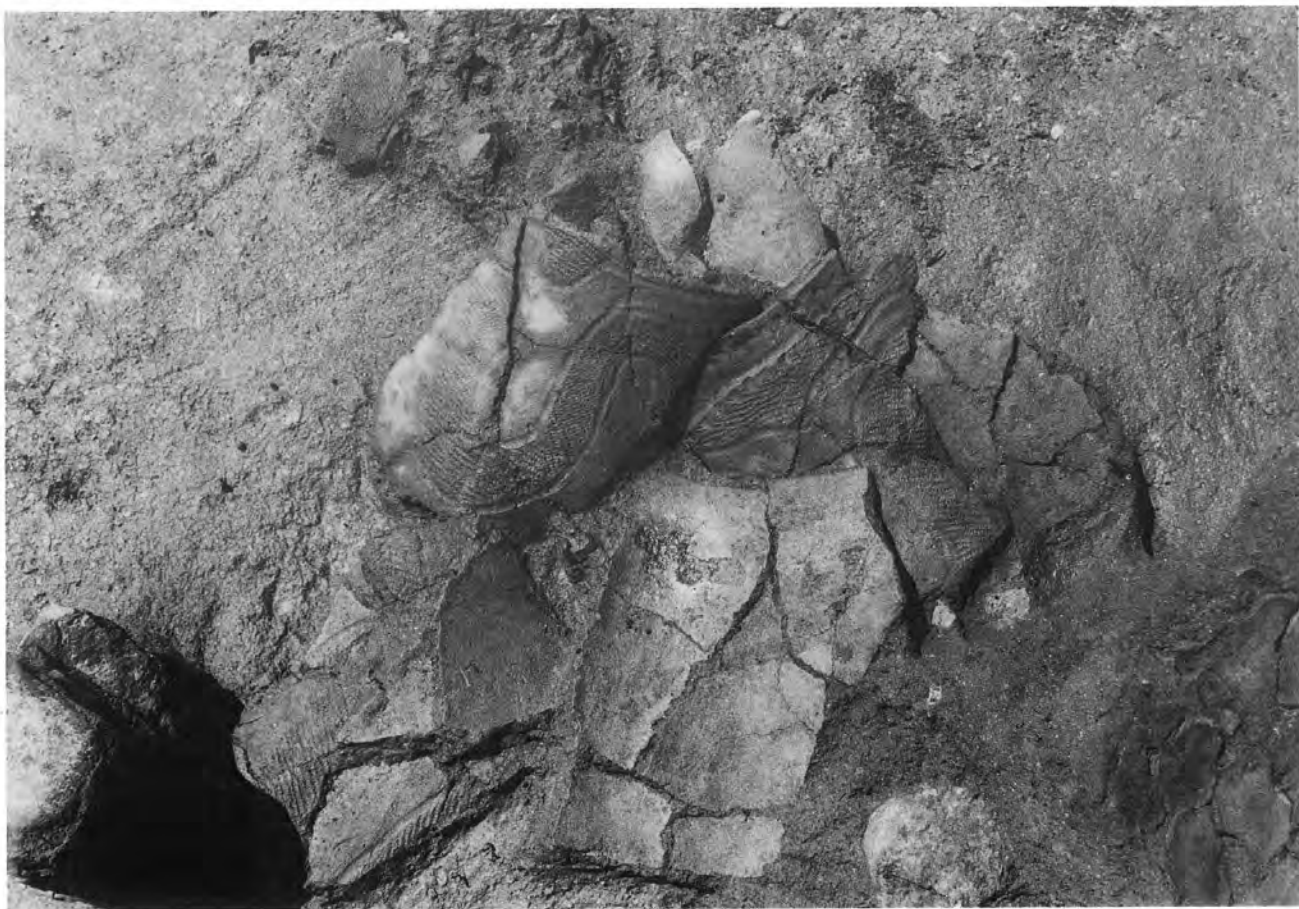


第3号竖穴住居跡・炉（構築時）



第3号竖穴住居跡・土器出土状況

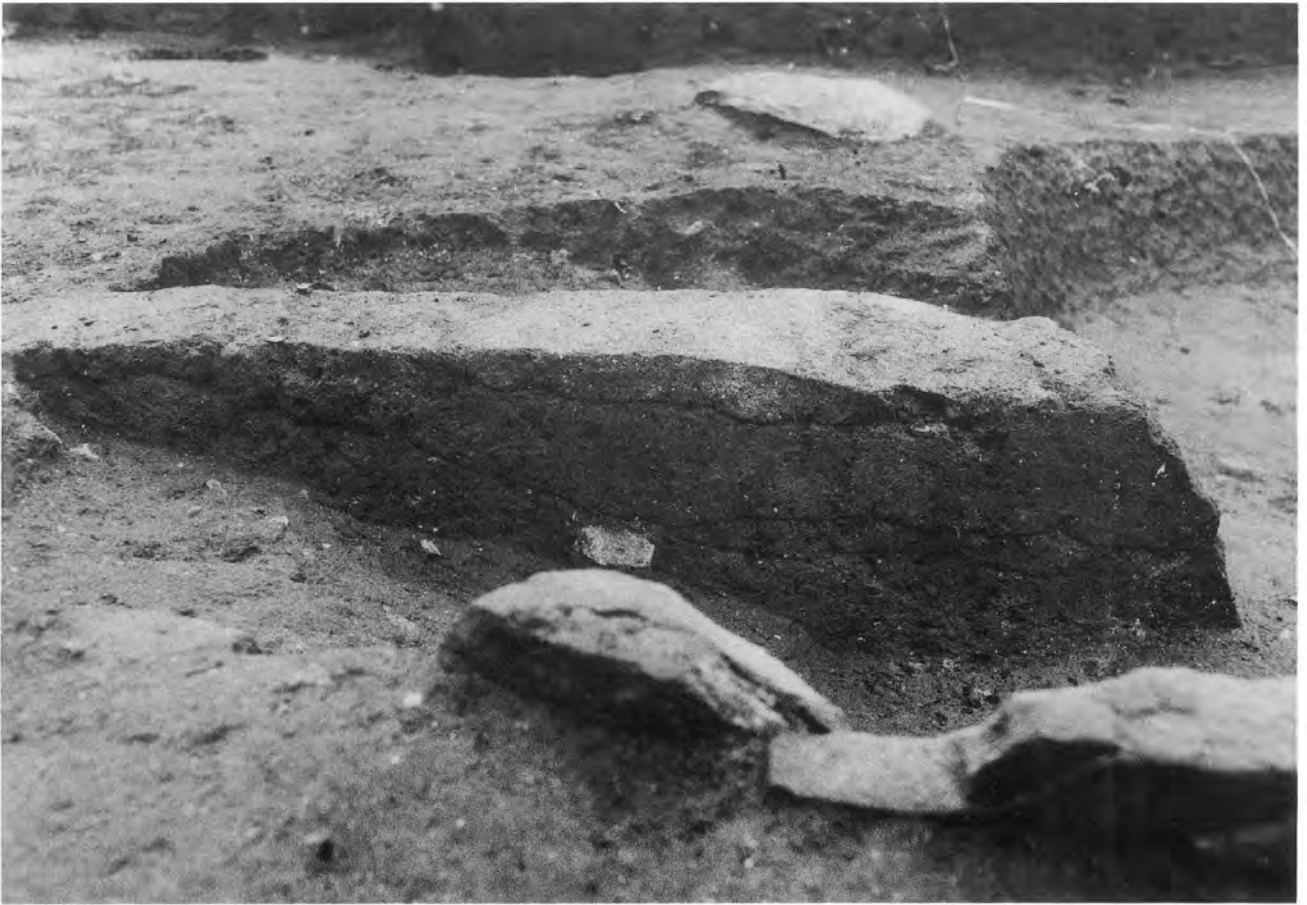
## 第4図版



第3号竖穴住居跡・土器出土状況



第3号竖穴住居跡・土器出土状況



第 3 号 炉跡



第 5 次調査区 北西部検出ピット群



# 第 6 図版

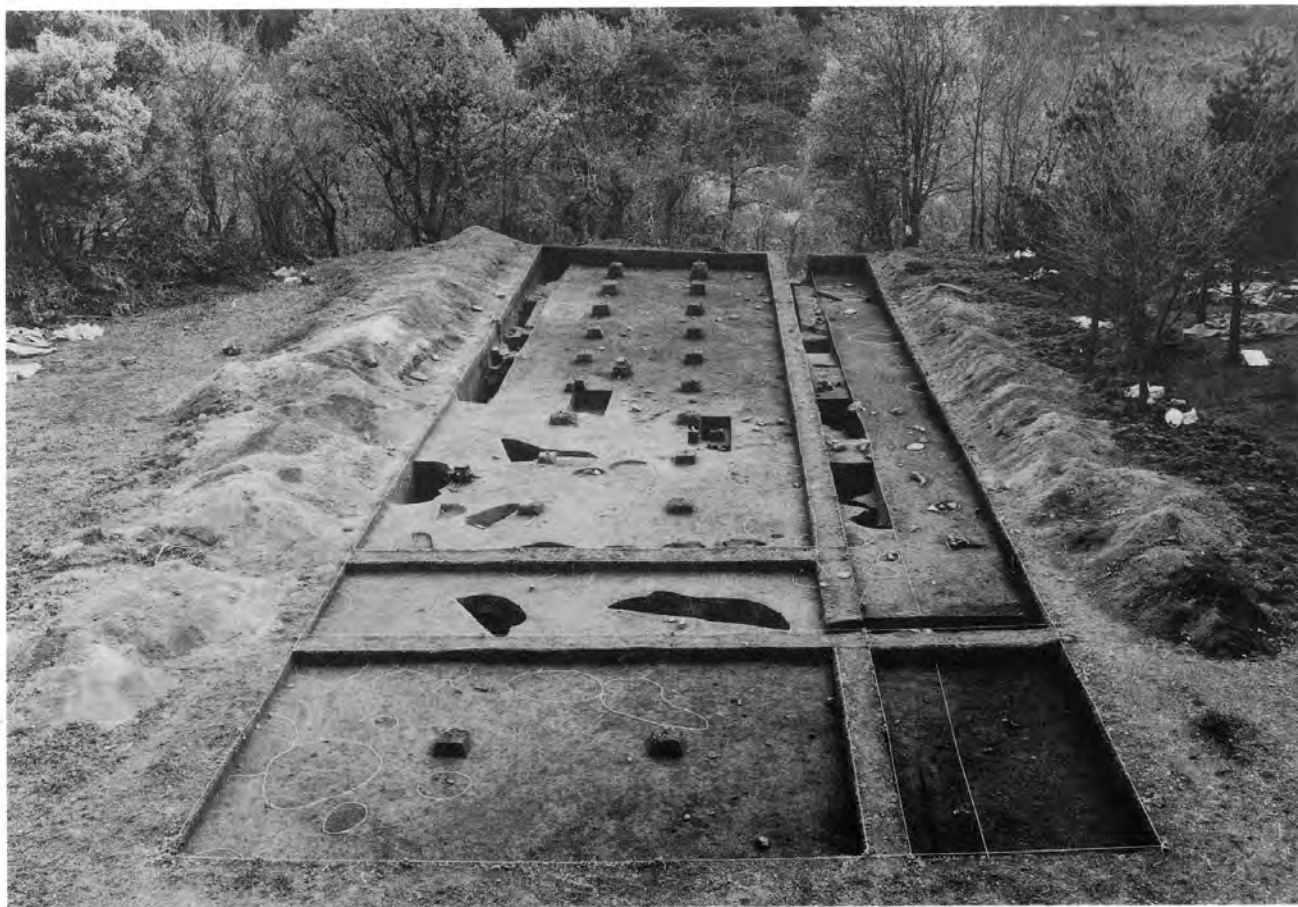


第 7 号 土坑跡



第 5 次調査区 土層堆積状況





崎山貝塚第11次調査区全景



S9W12 2号配石遺構 石斧出土状況

## 報告書抄録

| ふりがな               | みやこしなしいせきはつくつちようさがりほう             |               |  |                    |              |   |           |            |
|--------------------|-----------------------------------|---------------|--|--------------------|--------------|---|-----------|------------|
| 書名                 | 宮古市内遺跡発掘調査概報                      |               |  |                    |              |   |           |            |
| 副書名                | 早稲栃Ⅱ遺跡 崎山貝塚                       |               |  |                    |              |   |           |            |
| 巻次                 | Ⅰ                                 |               |  |                    |              |   |           |            |
| シリーズ名              | 宮古市埋蔵文化財調査報告書                     |               |  |                    |              |   |           |            |
| シリーズ番号             | No.47                             |               |  |                    |              |   |           |            |
| 編著者名               | 高橋憲太郎・三浦千秋                        |               |  |                    |              |   |           |            |
| 編集機関               | 宮古市教育委員会                          |               |  |                    |              |   |           |            |
| 所在地                | 〒027 岩手県宮古市新川町2-1 TEL0193-62-2111 |               |  |                    |              |   |           |            |
| 発行年月日              | 西暦1995年3月31日                      |               |  |                    |              |   |           |            |
| ふりがな<br>所収遺跡名      | ふりがな<br>所在地                       | コード           |  | 北緯<br>〇°〇′〇″       | 東経<br>〇°〇′〇″ | 調査期間  | 調査面積<br>㎡ | 調査原因       |
|                    |                                   | 市町村           | 遺跡番号   |                    |              |   |           |            |
| おせらちにいせき<br>早稲栃Ⅱ遺跡 | 宮古市大字崎嶽ヶ崎<br>第7地割字塊越2-13          | —             | LG24-<br>0020                                  | 39°40′06″          | 141°57′19″   | 1994. 6.15<br>~7.29   | 133       | 個人住宅<br>建築 |
| きみやまかいづか<br>崎山貝塚   | 宮古市大字崎山<br>第1地割千束長根43             | —             | LG14-<br>2079                                  | 39°40′21″          | 141°57′48″   | 1994. 9.12<br>~12.20  | 500       | 内容確認<br>調査 |
| 所有遺跡名              | 種別                                | 主な時代          | 主な遺構   | 主な遺物               |              | 特記事項  |           |            |
| 早稲栃Ⅱ遺跡             | 集落                                | 縄文時代中期        | 竪穴住居跡<br>土坑跡                                   | 土器・石器              |              | 縄文時代前期の土器を<br>伴う土坑跡1期   |           |            |
| 崎山貝塚               | 集落・貝<br>塚                         | 縄文時代<br>前期～後期 | 竪穴住居跡<br>土坑跡<br>墓塚跡<br>配石遺構<br>環状遺構帯（中期）<br>貝塚 | 土器・石器・骨角器<br>動物遺存体 |              | 集落の存続期間が縄文<br>時代前期～後期と極め<br>て長期にわたり、しか<br>も5段階にわたる変遷<br>が確認された。 |           |            |

—宮古市埋蔵文化財調査報告書47—

## 宮古市内遺跡発掘調査概報Ⅰ

—早稲栃Ⅱ遺跡—

—崎山貝塚—

1995.3

発行 岩手県宮古市教育委員会  
宮古市新川町2番1号

印刷 株式会社文化印刷  
岩手県宮古市大通2丁目5の2









